

武雄市文化のまちづくりデザイン会議 会議録

日 時	場 所	出 席
令和 3 年 9 月 24 日(金) 14:00 ~16:10	武雄市文化会館 大集会室B	☐ 委員(山口夕妃子氏、七田忠昭氏、黒澤伸氏(リモート)、 井上俊正氏、田中友子氏、松尾陽輔氏、川副義敦氏、 井上祐次氏、中野博之氏、光武英樹氏、綿島康浩氏、 鳥谷憲樹氏、永松直子氏、山口祐香氏、諸岡智恵氏) ☐ 松尾教育長 ☐ 市役所 ハブ都市・新幹線課 大野課長、 企画政策課 中村係長 ☐ 事務局 こども教育部文化課新文化会館整備準備室
1. 協議件名		第 3 回 武雄市文化のまちづくりデザイン会議 (テーマ:第 2 回までの振り返りとディスカッション)

議事録

1. 開会(進行:山北文化課長)

会議の進め方、考え方についての再度確認。構想策定を当初 11 月末から 1 月末に変更。
委員の意見をもとに構想策定していく。12 月の第 6 回で構想をまとめ、最終の第 7 回で
答申を予定している。

2. 議事:第2回までの振り返りとディスカッション

①第2回までの振り返りについて(山口会長より)

○第1回は文化とは何かについての意見交換、第2回はワークショップにて武雄の良いところを
再度共有。「市民、温泉、歴史、図書館、新幹線」がキーワードとして多かった。

○キーワードの繋がり「共起ネットワーク分析」を行うと、文化を中心に「新しい文化の創造」が
イメージとして浮かび上がる。自然、温泉、食など地域資源をどう活かしていくのか。
伝統的な文化・歴史をどう考えていくのか、まちづくりをどう考えていくのか なども。

②構想における基本理念の考え方・実現するための柱(方針)の確認

○第2回までを踏まえての現状の課題と整理

- ・豊かな地域資源を生かしたまちづくり、活気づくり
- ・あらゆる世代の市民がもっと文化に親しみ、触れられる場と機会の提供
- ・市民がもっと参画できる交流の促進と担い手の育成

○上記課題を解決するために、今回目指すべき「文化のまちの姿」として

- ・「基本理念の考え方」についての提案

もっと開かれた もっと関われる もっとつながれる 文化を活かしたまちづくり

- ・「基本理念の考え方」を実現するための柱として2つの視点から考えていく旨の確認

1「新しい文化(活動)と人づくり」 2「文化を活かしたまちづくりとにぎわいの創出」

⇒委員より承認。12 月構想案を詰めるまでに再度文言については調整したい。

○文化の構想で終わらせずに、交流人口増、経済活性化、次世代の人材育成、教育など様々な
分野に波及させるまちづくりの要素も含んだ構想としたい。

③ディスカッション(2 グループに分かれて)

(1)新しい文化(活動)と人づくりを実現するための施策について

○1グループ

- ・過去から見てこれまで文化として認められていない魅力的なものがある。新しい文化の発掘と展開を考えていくことで関われる人の裾野を広げることにもなる。
- ・SDGSの反映。新しい多様性をどのように捉えていくか。
- ・障がいを持っている人にも配慮した新しい文化活動を考えていく必要がある。
誰もが一緒に触れる場、創る場、発表する場があれば。
- ・若い人が無関心ではなく、関心を持ってもらうことが必要。きっかけづくりが大切。
- ・基本理念の考え方、柱については言葉として非常にわかりやすい表現でよい。
特に若い人たちに興味を持ってもらうような情報提供が必要である。
- ・文化の核となるものを明確にする方が、魅力的なまちづくりを考えるうえでより具体的に考えていきやすいのでは。

○2グループ

- ・重要文化財の保存活用計画を策定しているが、どうやって凄さを伝えていくか。
また中高生に図書館・歴史資料館の展示室を使用して、展覧会をつくってもらう。
武雄のことを知るきっかけづくりとなる。
- ・市民が学ぶ機会を提案する。多世代で学べる機会を増やしたい。
- ・学校においてやきもののワークショップを開催している。子どもの頃の体験はよく覚えている。子どもが文化にふれる機会を大事にしたい。
- ・武雄を知るにはまずは学校教育をしっかりと。場所についても文化会館だけでなくいろんなところで文化に触れられる場をつくることが大事。
- ・イタリアでは地元の食を愛する文化が根付いており、学校給食にも反映されている。
食と農業のつながりを大事にし、そこに器を加えることで武雄らしさとなる。

(2)ハブ都市・新幹線から市の施策についての説明(大野課長より)

- 西九州新幹線開業によるメリット 暮らしが便利になる、外から人がきやすくなる
周辺の方々をいかに武雄に引き込むかの仕掛けづくりが大事
- ハブ都市として武雄から近隣市町へ波及していくかたちを目指している。
観光交流センターや駅前広場の整備の実施について「まちのリビング」のイメージ。
- 回遊性のある観光地づくりとして高架下の活用も予定。観光客が歩ける使い方を検討。
また、市内集客施設を点でなく、面として回遊性を課題と考えている。特に文化会館、
図書館・歴史資料館、白岩運動公園などの動線も重要となる。
- 新幹線でまちがどう変わるか。市内外の「人」が大事。

(3)まちの回遊性、賑わいの創出について

○1 グループ

- ・回遊性を考えるのに、武雄のいいところを見直し、ストーリーをつくることが重要。
- ・武雄の集客施設を点としてではなく、動線としていかに面としてつなげていくか。まちなみづくりとして提案していけば回遊性につながるのでは。
- ・賑わいの創出にはターゲットをはっきりしないと。マップをつくるにもターゲットを明確にしてニーズにあうものを。
- ・観光客はそのまちならではのものを求める。食についてもどう提供できるか。
- ・中高生など若い人から意見を聞くことが必要。武雄ならではのものが出てくるのでは。
- ・市内外、世代などを超えて出会える場、情報を交換しえある場をつくっていくことが大切。
- ・外から人が何かをしにくる条件づくりが大切。吹奏楽、演劇など人が集まる大会などの開催を。また、それをコーディネートする人もまちに必要である。
- ・ヨーロッパのまちなかにあるモニュメント(ポータルという作品)の紹介。
歩いて回る楽しさ。まちのあちらこちらにあると親近感ある距離感となる。

○2 グループ

- ・武雄はアウトリーチで大村と関係をつくってきた。開業時のイベントや今後も交流を続けたい。
- ・新幹線開業は飲食店にとってもチャンス。旅する価値のある場所をどれだけ増やせるか、魅力をどれだけアピールできるかが大事。武雄だけでなく、少し広域で魅力を発信するのもありかと。
- ・シュガーロードなど地名を伝えるエピソードを伝えるものがあれば。
AIを使った昔と今がわかる街歩きの提案があっても面白い。
- ・駅でいかに降りてもらう仕掛けをつくるのが大切では。長崎と武雄の関係をもっと深堀りしてストーリーをつくりPRする必要がある。
- ・やきものにおいてもブランディングが必要。武雄焼＝特色ある、面白いイメージ付けを。
- ・おせっかいな人が複数いると色んな分野との連携が勝手に生まれる。

3.報告

文化のまちづくりアンケート調査の実施についての報告

10月1日(金)～20日(水)での実施

4. 閉会(山北文化課長)

次回、第4回は10月25日(月)を予定。

部長 理事		課長 参事		係長		係員	
----------	--	----------	--	----	--	----	--